立花初心抄

ヲ g
1583

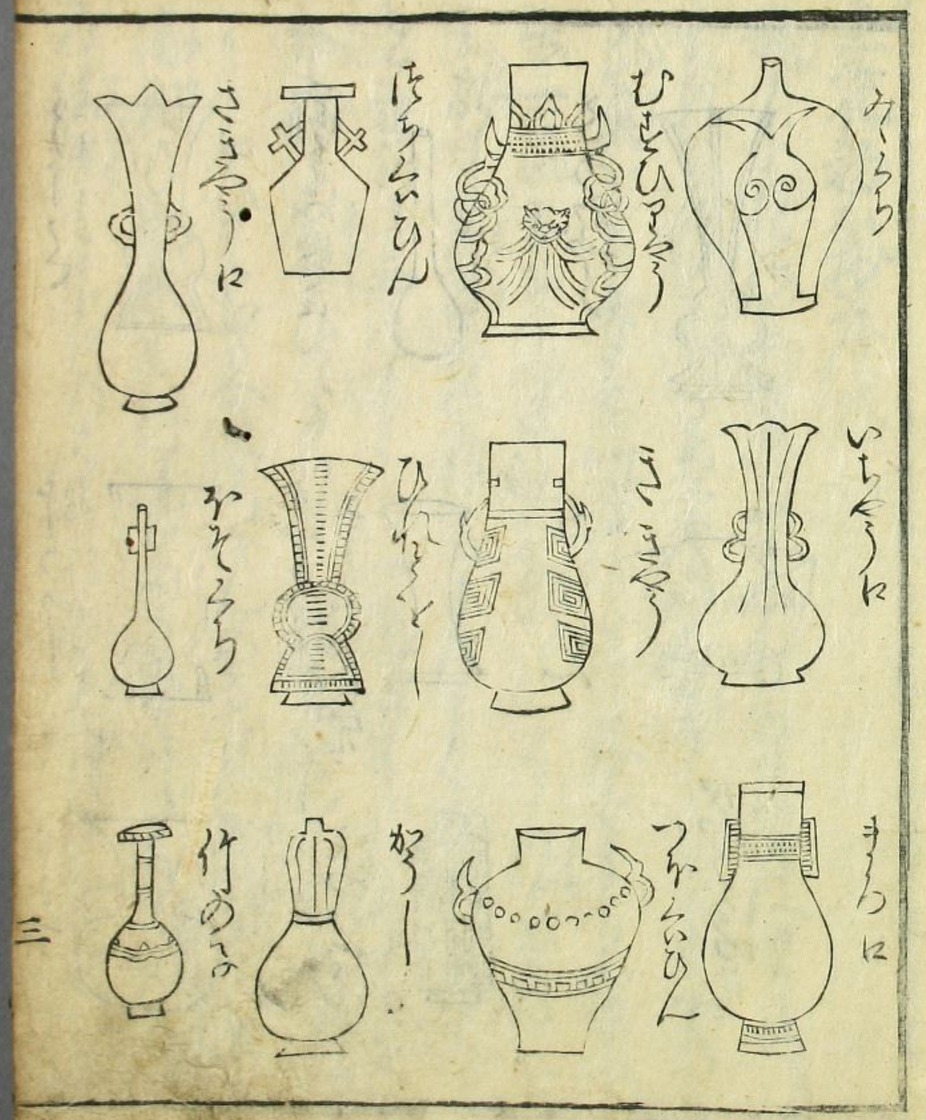
79
1583

79
1583

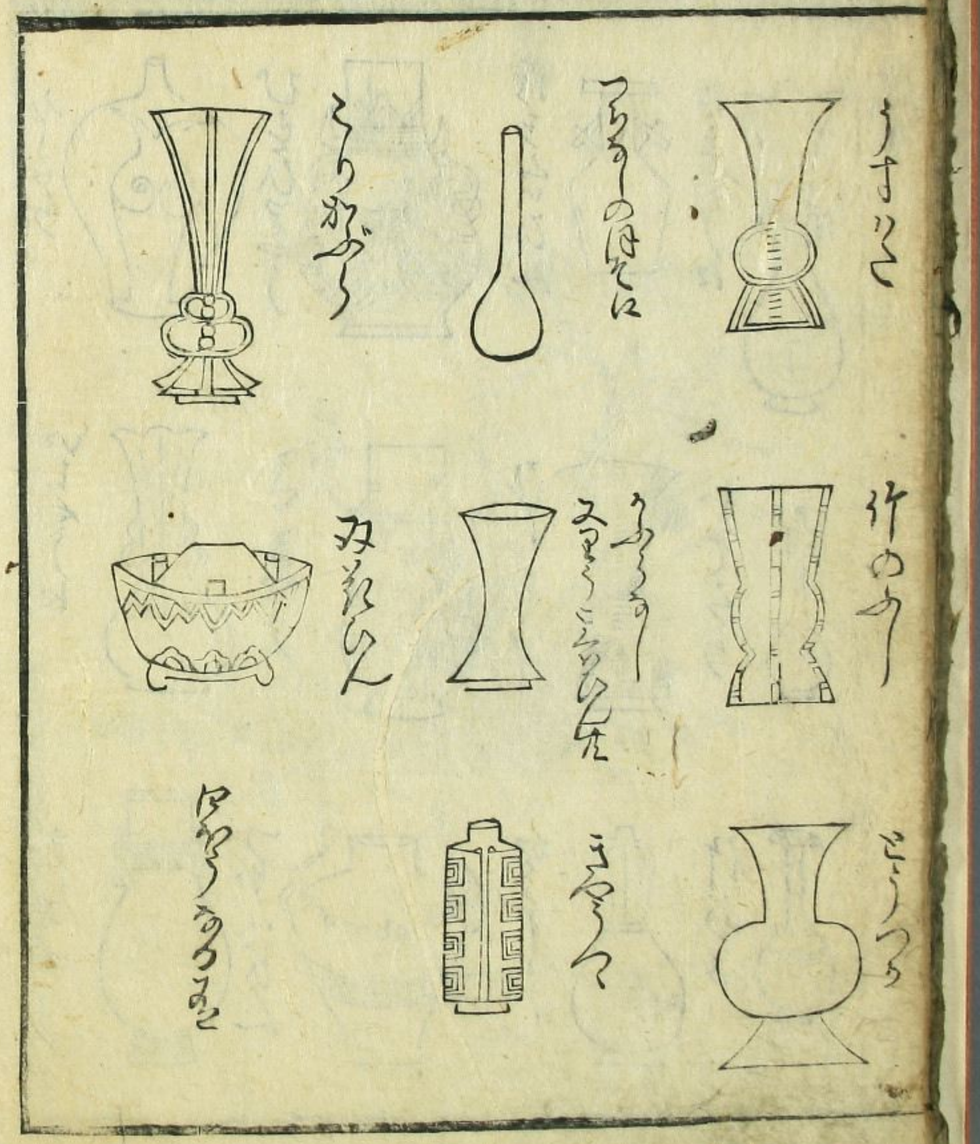
多賀
4183

松
白梅
ひの木
ひの木
竹
竹
梅

主新
ひの木
ひの木
ひの木
ひの木
桂
ひの木


みくらち
むさとひつくみ
ほうらいひん
さいこうひん
いちくらに
ひたくと
竹のこみ
かすい
まくらに
つるくひん

八月
紅梅
小まさきこけ
紅梅
梅
松



立花初心抄序

龍ノ一花ハ立ハ人ノ有ル世ニ生レ出テ
[illegible]
[illegible]
世一流ニ成リ[illegible]
[illegible]
[illegible]

摩訶迦葉の獅子の座を嗣ぐことは、
いとけなき舞楽の手の本の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一第一元氣立水火土木金穀
かゝりて真元あるゆへ
へもつとゝりあるわけ
と立ひるゝ水ばかりの
なるゝ位下まるゝ
一元と立ひるゝ元和くに水ひ
切者乃根本なひ
ゝ者よひし
一元立ゝ元真元立根元真とゝ
ゝ元立ゝ元真元立根元真
一元真乃ゝ元ゝ真元

ゝ元立ゝ元乃通元ゝ元
よかゝれば有て通すゝ
元ゝ陰ゝ一元ゝ陽ゝ分て草木
何れも皆ゝ元ゝ
一陰陽ゝ元ゝ乃ゝ
人先ゝ人ゝ元ゝ根元和ゝ
陰ゝ陽ゝ元ゝ根
一草ゝ第ゝ本ゝ可き用者本源ゝ人
ゝ元ゝ元ゝ元ゝ元ゝ
ゝ元ゝ元ゝ元ゝ
一元ゝ元ゝ元ゝ元ゝ

草かき人参等に牛の出いるやうに言
いづれとなくくずるくすべき。一本にてくさうて
ハるとん。花の色かりてまへ〜ろよりいまを
さへぎこの角ろろ人をて草花本こゝに人
の書をくんやうにすべき遠近の中。松に枝葉
のあるれでこゝくんを花人をくいかくくこ
わひろ。ぞうかぐ〜かさこうかさうかを枝
葉をくし。松いひぐさをれたへねやうにすべきし
一さしとめくきれ松の本一枝すべきはこゝを
とこんけんをとさしこゝくこゝ法もわり。仰
仰山受あぐーの本にる

七

一花本一面をすぐきも
ぶり。葉をくこと。水新。うんてんく。野
かと。いさごり。すを。うんばう。うんへ
枝葉。みそんぎ。志をんーー位葉牛い。ふきこ
果わざみ。ゆうぎ。うんの花
一枝云ふいむ花の事
藤花いぢう。いうぎ。しゆけ。ばんだう。いたそき
みぐ所。女郎花。うきぎ。いもの花。こうぎう
川原なでしこ。ねぎ。ばんだき。ぎく。ぐ。ぐんぐ
ゆうぐ。ぐち藤。ほぐき。ひさぎ。ひさぎ枝
一本。ひさぎみ。一花一本。竹大藤

ぼけ。ぼけ。朱色

一立合の義の事

松の枝。梅の葉。竹の葉。竹の葉。ねざみ

桜の花。柳の葉。橘の花。ぼたん。ぼたん

南天の葉。

一紙の端の長さ竹

一十文字の枝とりあつる

一月さしの枝はへさし物の枝

一草木ひくくとさす枝

一手もとのとりてひくる枝

一月と出るとて指さす枝

一去らと事とはけあるる枝

一草木はうひくる枝

一用事ありてまへくに用事ありて人を

一紙のいろりてまへくにて

一うちの花を稀ちかつに

一ちぎいとくまとりに寄せ

一ふくみちる枝

一はれ花の

一柳のおりあく

一おりまへくに事を乗せ

一おれくはの枝

一ふくまく枝

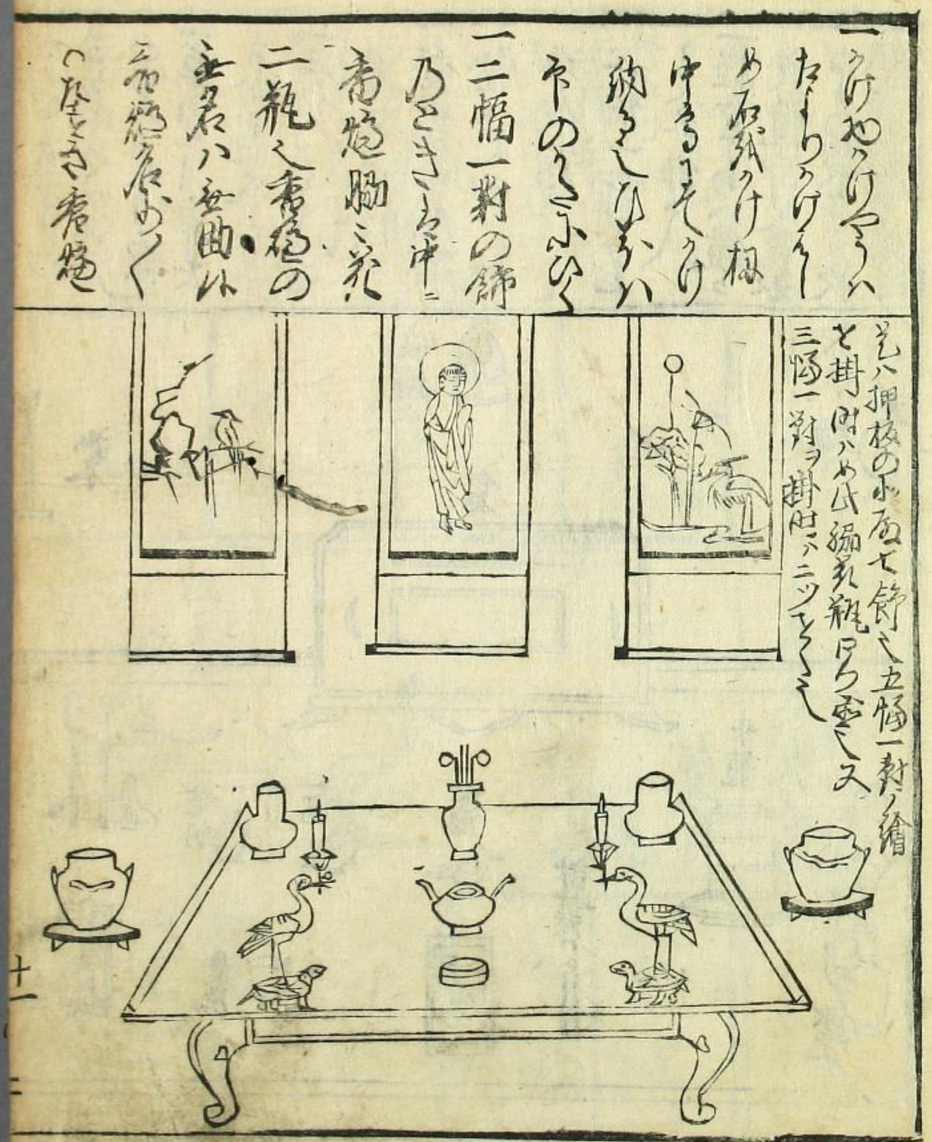
一華うて花つみ申こと華を色とす
一長義（ながよし）他一方の花をてからうの赤同し程なるへ
ちらしうちす。枝葉ともに花くらす
一切枝他遠近ふかくなるへ枝。実ばかり枝
一強（こわ）き方の枝やうて後をさしたす。切切
一後ちらまへくまの枝・葉のなかの枝葉
一月枝の月うて切ちうてかしす
一花より長葉のうちに河州ら葉と申くすかこと
二枝に所ひとうち花あるに二所更月色
花の枝ふりあるに所月へ
枝のかはのうち下に月へ今如月と言程花て可有
一花雜のこみなさなるに水さいはそさ更
一花ちうり立と
一枝斗立と
一柳大方花の新さのみ月ちうく立ちうす更
一葉の立あるを新ちうり立ちす
一花と長葉とひとうちにしれもと言す
一月あと二あに月ちうく他ちへてのすす
・十二月立ちす
一正月松　二月柳　三月桜
一但月卯木　五月竹　六月夏菊

七月桔梗　八月稲　九月菊
十月梅　十一月榊　十二月早梅

五節句の事

一三月三日桃　五月五日菖蒲　六月六日瓜
一七月七日梶　九月九日菊

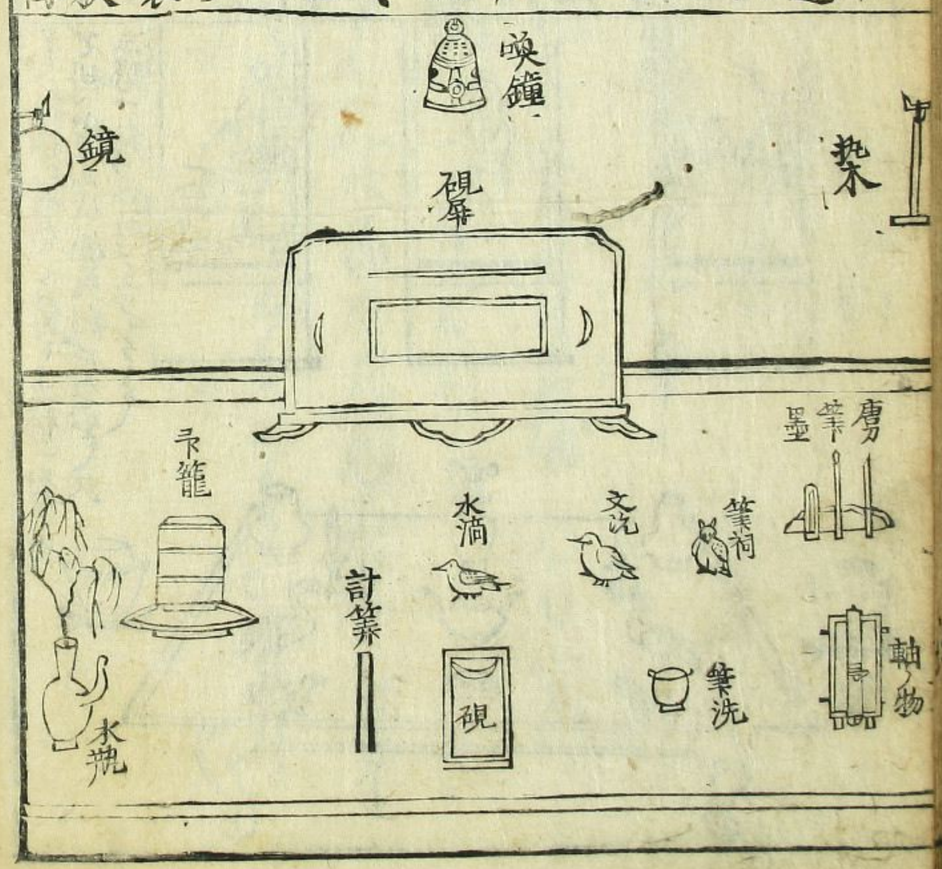
右真宮ちくいんの御前ハ前栽ハ下者
以下いろく前ハひんしゃくなり



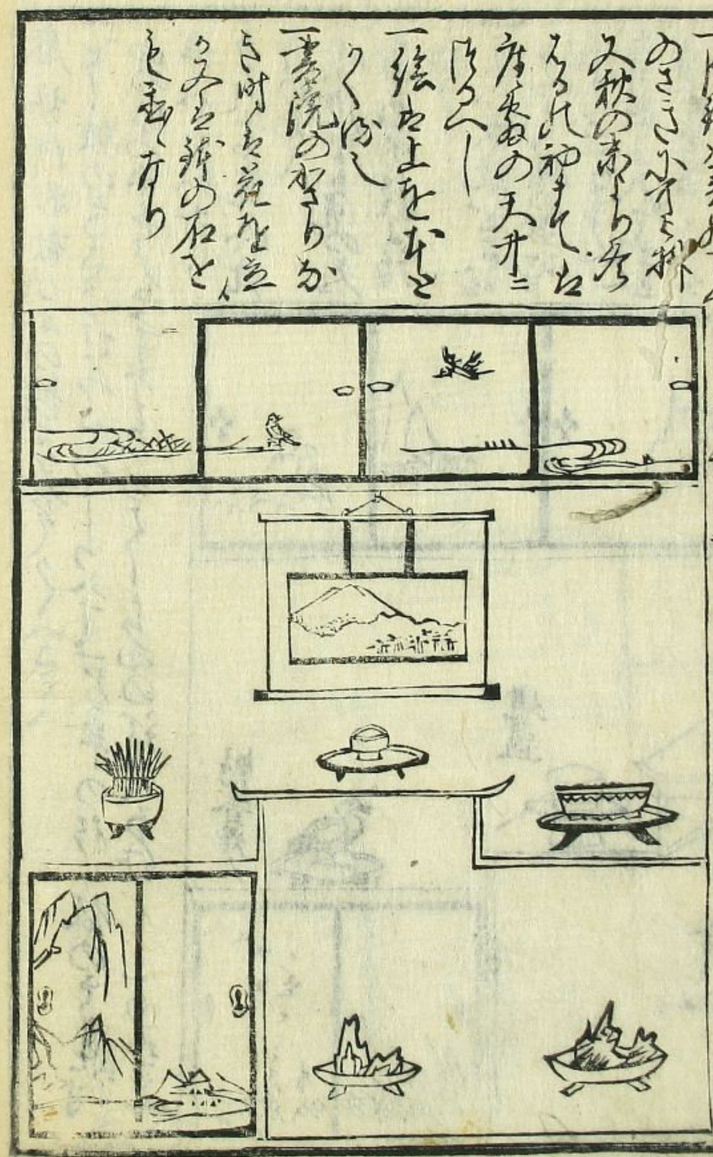
一うけわたりのうへハたちもうけなり
ゆかの真ん中ハ相
中ゐるまそうの
絵ゑしひちハ
方のうへふひく
一二幅一對の師
乃とまさる中ニ
青磁脇ニ花
二瓶ニ青磁の
壺ハ安曲ハ
ニ而絵ハ花ゆく
ひなとさ青磁

花ハ押板の上ニ置て舞ニ立幅一對ニ繪
と掛ハ内ハ氏編花瓶ニ乃壺ニ又
三幅一對ニ掛ハ三ツとさ

○ろうそくろうそくのやうろ
○ちやうちやうろうそく
一卓い折卓たゝさめく
一二節とゝのゝ
中ゝるの絵一
幅ゝ絵者花
瓶ゝ内花二瓶
本地絵塗ゝ
二幅一対ゝ
ゝ三節ゝ
一柱ゝ八鏡ゝ
花瓶印金装
芋の鍍唐刀欽
越掛物ゝ箱



麻姑河利勧ひ水の類ハ居ゝ
一ゝ板のゝゝ世ゝ
更ひろさ三ゝ七ゝ
他大ゝ殿ゝ
ゝれ書院ゝ
数のゝ
一喚鐘ゝ書院の天
井の中程ゝ
一ゝ
ゝ
ゝ



一之瓶の時は脇花瓶に一方の花を第一にして用ひ今
一方の花をもて用ひ一一一方の面に葉ひろき物なれば
一方はこまやかなる物用ひ一方の瓶の葉を遠ひ花をもて用ひ
一深湯の葉をもて用ひ
用ひ
一形状沐浴花の花枝葉の第一に所要なる花
を用ひ
一連歌等の花ふるも名誉或は神祭をもけ
る花の花枝を用ひ
一うるく花の物ひ枝を用ひ

○蘇芳　○ほさの花　○ふち藤　○ふち藤
○沈丁花　○まんぎく　○河骨　○ほたる
○ほう草　○ふち花　○白ゆり　○流丁花

一ゑ竹梅の新花を挿　板の上三瓶の真ん中に
種用ゑ新ゑ　ふ一二瓶ゑ　ふ松を真
中ゑ　ふ二瓶ゑ　ふ一瓶を高ゑ　ふ
ゑ　ふ竹梅ゑ　ふ

一ゑ　ふ　ふ　ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
一其上様の見に繁かくいたそうらうのそれ立
るもうもうおりこおわるさわうそ別のわ立る
半腹て仕うんもうんどうの人をうーかすす
一こう人数生れいすうーのさーかうーかうしく
義にうみてうあるうの何ものもあるれ
てもうるうーうすしく
一ひんうの主数ーうれ光のん物うるものとそ
すひうーさうるわる御月うう
一行のうさびひうるさに行うと立るの元者うし思

一禁数ものしひてもう人をに行うて不者
一うみうーう人屋うのうーう主に行うて又秋
名いたくもうる
一者せーうおりうこれう立うのうる屋数と
ようきうひうる
一うす数云よ立ものうし
一巳方の数のうるのうーうあがりにかく者さうう
ようのく作さうりよのく巳方ーうりんく月一面
おりおうに可をいれ月ーう者重とうく
さーとあうとうーうさーて云ものう後乃

濃湯のさうりすく指長のさやうに白生絹を
一ぞくん幸又幸元と裏よりの本紙をけ
てすきおしりくくんやうに可き
一三幅ほどの紙をもの中をの紙とうりうけて
くくりあるりまさしく給仕のいきをたすけ
校茶可立為湯の紙いたる人のてをのよりも
座敷の掃きたしたり極くのさしやうに紙こし
一三瓶をの式をもの一表より中をの二巻よりたく表
より右して立絞らしし
一三瓶の紙人より取出より付方用伝授いりて
中をの式をすりくくみ長沢いたをすりくくみ

みをもりたの人まんし
一三長三の紙のをもの紙瓶の長一尺まなり
されたりそれは見たる紙裏をの二尺計もて
おの意をくさし山校茶の沢牙は茶紙長右
長方紙をんをくさなり茶紙の校をて長方
より割を用為茶の紙をもをたをけく用也
長瓶の校茶をて沢方をかくくをもをく
もをの沢方ををもをもをく裏割をくの紙
流の校茶金箔茶をの表をくくをんくの茶
紙をを色し校茶沢をけて沢茶くより茶をく
をを沢をて沢をやうより用下

一弧花瓶敷ものに用ゆ
又草本又或い松竹等を活て用ゆる
真しを剪のこしさうして活て
わひく敷ものに用ゆ
是を小活と
一瓶の内にも
はなを長く切て
又の方をは枝葉ばかりを用ゆ
又のもとはひくく一方に抱一方にうつく一文字に
又いあり今一方はさうやうに用ゆ
なりものくさいはいこまやかなわを用ゆ
わの方はよい細めと用ゆ。赤実とはけを用

一ゆきさい一方にうつく今一方にひくくまたうつ
やうにふしのひしかうつ場あなくうつもくさうる
やうにあるをおいてはうつくさなといはすよ
りうつくまたは下まをはけく丸まれ花をなかと
ひくく花山吹のしうるわれかすつる杜冊者
茶杜若桔梗業苑。紅葉花。その花くひろれ
ものひくくあるこはをかうくに用ゆ又松れ
ふ者。竜膽の付花はかりかれの冊よりの葉
さひくくあるはもいさうひくく用ゆ
一雲竹梅の花い押松の上三瓶の真ゆは三種
用ゆ松葉ばかりを三種に松を用ゆ

二瓶と云うて今一瓶を南方の花にて用ゆ
行掛よんだる方の花にて
一軍陣の花は陣むさやうの色のさ真義れ
彼方のもの掛ちの外さらんし城中にて接待
ちし
一夏草を立て本よりもてひかりよりもと
瓶はさと花城とも也と並よりかうして樹の
新葉合ちうす
一春花ちり夏秋乃和まて一瓶乃ちら草花
かちよりは用へしと秋乃末ちりみて春和まて
樹ちよりは用へし

一夏一秋と立いよ所落いやうに可立花出
来いとも所にかうせきわて立ちの秋変し
一相花瓶なちよ入位ようれくのかちとと花
まいて入いかちり
一花ちひの花い一方ちかうびさと立い本花
又用ゆ方ちかたかうする所ちし相秋ちい
ちうて平花い位用ゆ和と立いい月合て立いし
一春入なと花とも立てれくいもと立ちて花
時ちと春花ちい色入いうくちんあに立へし
一花ちうに和ちちうちちわなくい花ち
ちうしちうちちうちちうち

[illegible]

一[illegible]

何[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

○[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

てもくるしうしたがのようなるもてしてし
一さしもの花のもの事 松と竹と真のあるさ
大小ありて可きをいろはもの方は正真より用て
平凡なるやうなるのありとおもひてあるひく
ようなる可き立ちうきりまてさしもけうしたおひ
あり花瓶いま人の夢のとくさしもいひ人
の方より可きを
一すべて花のもの物をもちへて水のすくこ
ほの方よりしてしうしうしうしう真立
或は左の右の表裏より下方をと
うしをして清湯をさしもけて右の花の花の

ありさまして遠方すう先の花と二所よりして
ちうしたし七種の花のうれも立花同者し
一かけ入花のもの清湯も法度も右のとくこと
おすう義箇一本へおくて花のさけ一本なす
寺に可立二花二本三花三本三花
も可用ちうしうす花入はさうわんの入るす
ちう詩をして書付ちうるを法花いるひ色を
よるもんざうがのあんやうにいけ色し
文字花あるくはいとはうへし
絵物可用
一真行草の花瓶の作者は三年にあり先人の

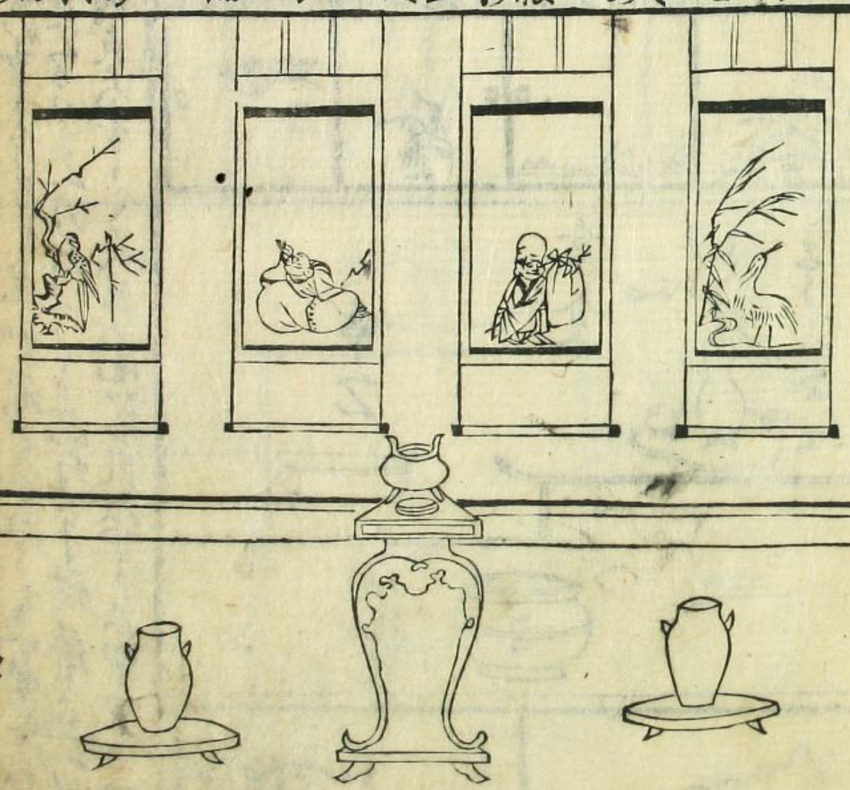
花瓶と云仏前花の具是也之花瓶い真の花
ゆゑ[illegible]なし[illegible]禁花といふも真花瓶
よりかさ[illegible]仏行草の花瓶ゆゑいふ
後云八所を立角[illegible]
一瓶と云ふ[illegible]
一行の花瓶と云仏前花の花瓶にあらずと[illegible]
久しく年ゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]
後言の所[illegible]
一草の[illegible]仏前花の花瓶[illegible]

只茅の草花を立玉[illegible]
瓶と名付る山野[illegible]
[illegible]花瓶[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一蓮華立花の事[illegible]
[illegible]
可立其外[illegible]
一日花[illegible]
立[illegible]

立花の式

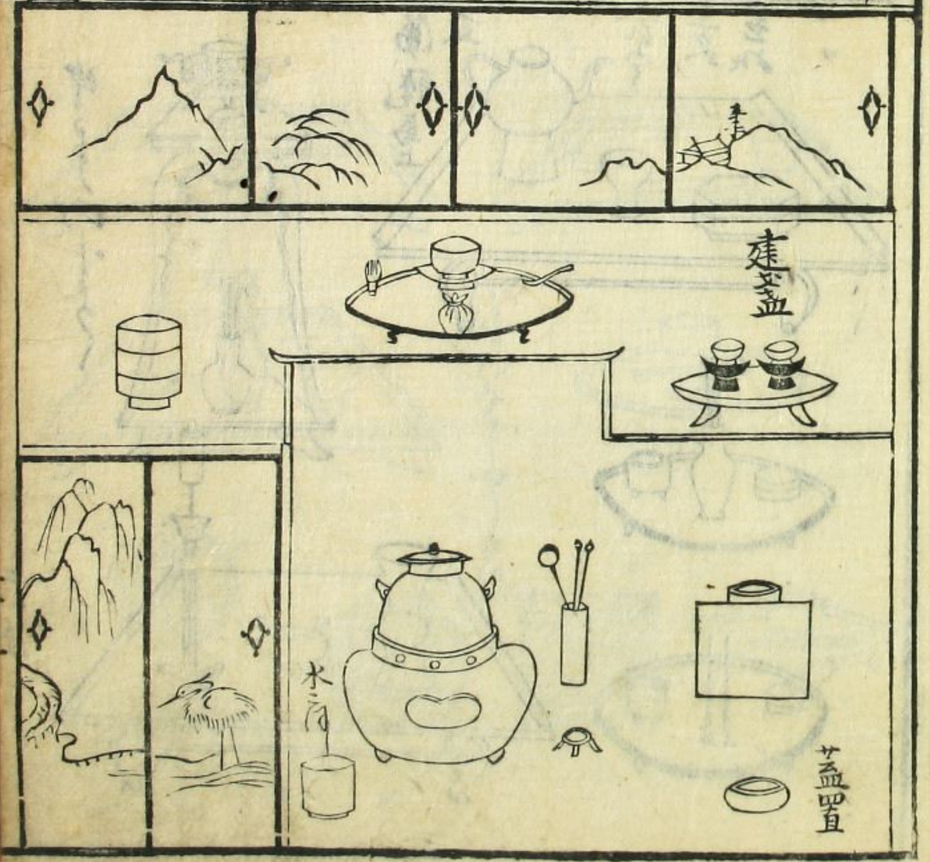
一枝云はしらを桂と申くるやらをよく知る
ちうしゅの花の何ぶとをもつて花やまとた
わし用給わるべし花よくさきてうてうし
一枝云中一の真ん中に松竹梅を申する
なり何をも南向きなるべしひとつ可開但又
ひとつをもつて色作をみつる花可見し
一中陳の花と云竹と云下草をもつてなかさ
と申さいはいをみとるべしとこのうちに
一色をもつて枝のうち彩者に用色べきわし

二三幅一對のうちかけわるれ
ものさうに二枝先
丁立中ほの者能
ある其種のたちさ
まなるべしうの陽陰の
ものの式
一家の花いろの枝
のかまへのやうに者
りたかをもつて
ほのさまを
さし出とへ
一繪なる人物を
何の花の人物を
花も同者に幅
一對の人物し
一大事の繪をかく
何花能の水に
ろく能と人物を
かくるの花も同者

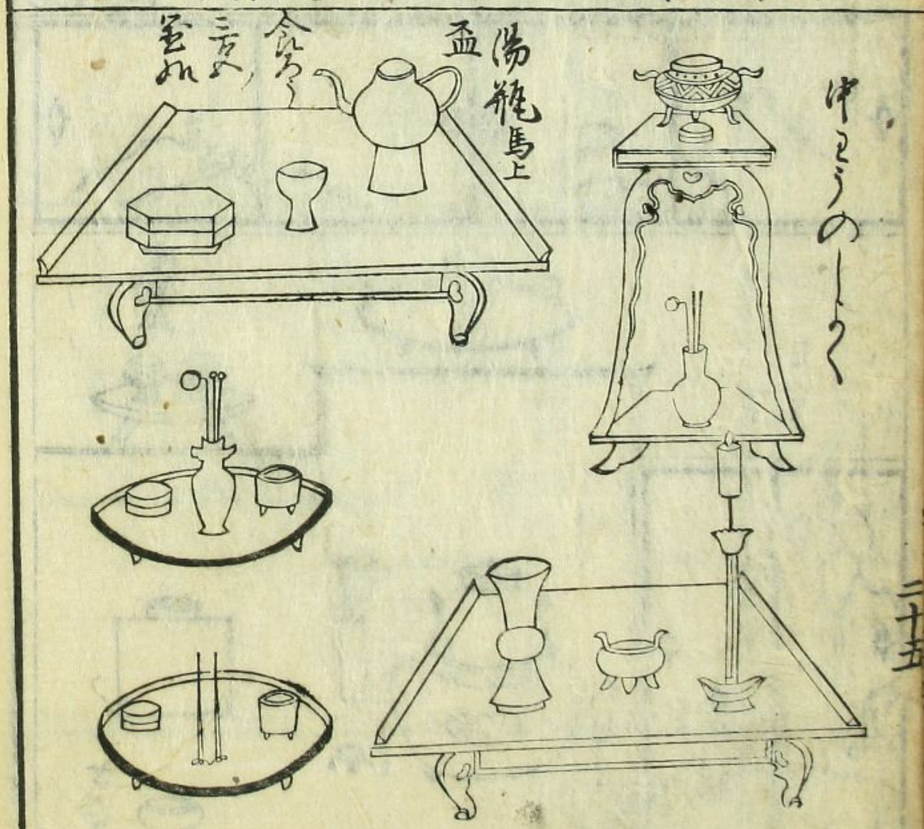


一たなの上下ハ花の事なれども是ハ立ものの人物ハ
なるべし花の下の花ハ花大事にして人形の面かゝれ
一絵なるべしかゝるとハ何ぞ花大事にして人形の面かゝれ
ハ人物ハ花なるべしの花ハ人物ハ
一棚の上ハ花なるべ
一三節の竹の花瓶
両の花瓶の上ハ
よりを立て中と
いまもむを立てハ
絵へしゝ中ハ
ら花を立て
ゝ二瓶ハ
中もゝ
まゝ中ハ別の花

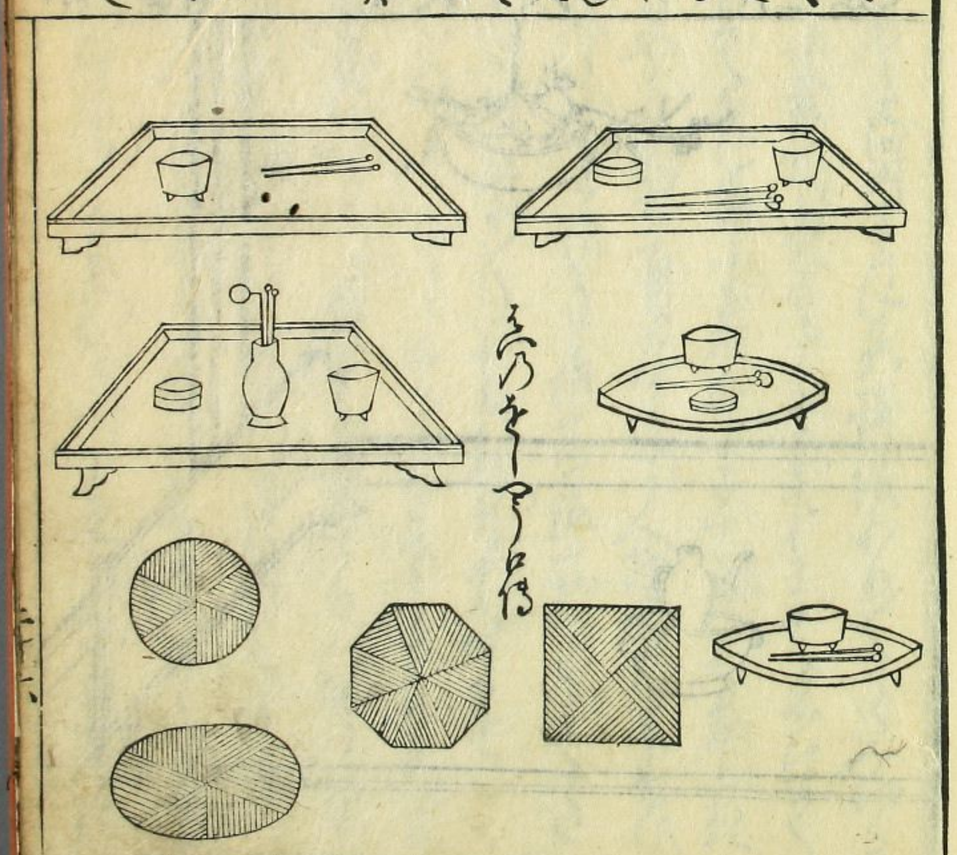
花ハ人物を表ハ
ゝ二瓶ハ
ハ中ハ山ハ
一三瓶の花ハ
ハ中ハ
二番ハ左三番ハ
ハ右ハ三瓶
一三瓶ハ中ハ
ハ付ハ其内に
ハ付ハ中ハ
ハ中ハ
ハ人物ハ
ハ人ハ
ハ

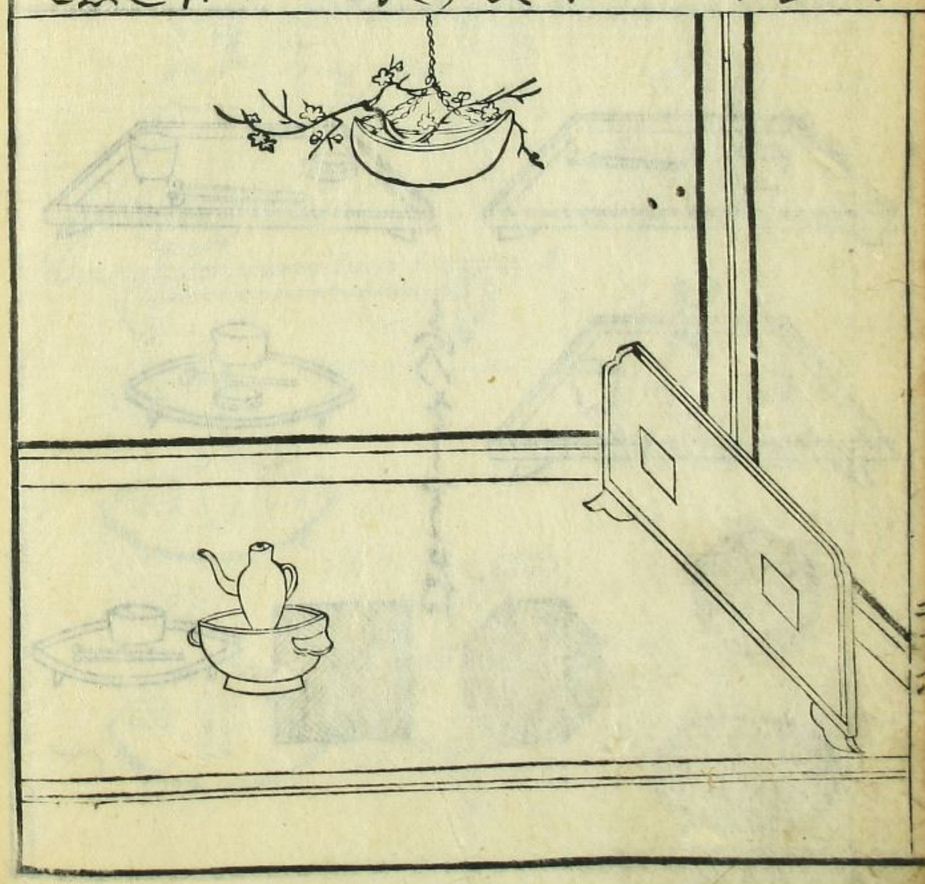


三具足の花い
ろくぐさいろ
對して右長花
瓶左今遠近
しを立へし。ひらく
枝を長ばいぐく
枝を寄忠し
一云方様御成の時
行枝を二瓶一對
三具足さうし。
さうの長。黄金
を長くのこ長
を長をかくし云
三飾そろへを長
中に長ろさを
黄銅の長ホに
ろくぐこれに花
ひん枝に長ろく



長ホ付の花ハ
長ろく長乃ろを
對して右なろく
左ろ下ろく長
瓶花瓶ハ瓶給
乃右に日花の草
動て長ろに遠
左の瓶の下の花
ハ右の花を高て
右長左瓶ろく立
乃
一三具長乃黄金
ろう三寸わろう
三寸ろう
一黄銅の六角
ろ長ろ分て
押へ一面に向
乃ろ。ろを押し
口ろ乃ろ





一掛物かけらるゝ時は其掛絵わるくとみゆるやうに真ゝ中に置べし水もこぼすべからずしたけて気をつけ家によりて気にくくうとくれるやうに可申用たるべし人物いたくせひはなるやうに人物はいと長寸程一枝もしくくしびわらくくに小貝式分にて可申

一茶真をこけをもくくとそのうをとゝまるとよんでたる茶ふくろに色にて描かるに可申

松のこけ小用と思ひ作称の表用てすま表いこ酒のとくわら表ひとゝとゝるを

かなのうしは表むとゝとゝ云物を可申大小二ケは

ひてうしはりうこと一ぶ者りりさんに可き
くてかはる
一給仲のかつて成河いかはけりうして光一瓶
くてうしはんてふしたる花れ水竜蔵ありうん
やうに可立こけの池とあるいけるやうに可用
若真の河い茶と若とさすあるうはる
一或流ま松葉の時い枯木なくとおすく発光
若しまてうしはりうこと若ないけとりるい年久
しくあるていこけむしさるうる松葉ふかい
あひしやうの河い枯木も立作し
一若しと立れるようさ真ぶたくへくうくく作し民

こけしはりうこと作何れの若して
そもんてねなし又立ん小若しとうへりる
真るるいあるりてりるて又大光ま一方ない
木式立一方ま立てのけて若むしるけ造
るるて何れの若しとも真ゆへくたに
若しいさ本ばりるく多あるて
一さしやめに光けりう立るるりる葉ある
なるるい葉をくく松木
一おりて式立ぶたにんふ立ん又ないたれん
をく松若するるるて縦ぶくと葉はる
立へ一縦てんをんぶりいるて松すい

一長の末ごとに立まてゝいみうり松くりこの枝ち
をまてもちやもちんまれくいふ屋
一かざり菊たくいわうしてねなり
一菊花をしぼまはりひのまつくい立てやうて志
ちうくし
一下者とさろに晩で京より切ちうがくいわさうり
ゆへだすゝおとりめに作しうりまけ方所
なるくいぐんをのようちうるがう
一赤れ葵は菊れ葵と用ひ入い菊の葵に赤れ葵
なくて用ひるものわるまくいし
一天花と為て二ほふしも立ハ〳〵一ハいわ

さくと立るしゆくにも出ん行あし
一真下車なにはうくうくいたはのあ猫ひさ
和紙花とよんで色とをきさ花とし
一三ぐの葵一枝い立ねあるは二所又ハ三所付ける
枝神まちりまいさうほうたまびあれ
葵に色ぐ一枝をへくて立作いくうかうほい
たうさびもぐの葵作ちあし山葵花たびひ
何れも用ゆし
一花鞍なとしもあに付客ちうれんをいて才盃
あるようのうとうとおけい花まてもあに付客
ようさねし牛一まびを花ゆんにんあるあし

一[illegible]真とをるくあけて下葉をひきく飛くれのしき
の花とりさらひ作
一いろ[illegible]ふ[illegible]なき花所[illegible]
一[illegible]なき花[illegible]ろ花[illegible]て過ひ[illegible]
一[illegible]武[illegible]なしまは[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一七夕の花[illegible]花瓶[illegible]
[illegible]中[illegible]

一[illegible]真[illegible]て[illegible]白い花と立作
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一花[illegible]に[illegible]花の[illegible]
[illegible]
一花[illegible]
[illegible]
一花[illegible]
[illegible]

一松笠二所おゐぬるに作者をもとゝ思へ
一ゝさまの歌を花ゝ[illegible]
松にもて[illegible]少相中[illegible]
[illegible]
よいづちとゝ大内とゝいづれ[illegible]
小勢仕おゝ[illegible]
遠ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一かさねひさの花乃ゝ[illegible]
一三ぐそくりのきんのゝ[illegible]
中ゝ[illegible]
あゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
一花を[illegible]
[illegible]
[illegible]

一棚の下の真ん
中に花ばさみて
置ものとなりて
立ものなり紙屋
押板もなり和
漢共に用ゆ
一飛びらんとて
花ばさみを分一
ちと脇へ寄せ
寄せんと思ふ方を
外二寄せて今
一方の物と外三と分にして
多くは書院の押板の
一に用ひる花瓶八重
[illegible]

一花の中に
花瓶を中に
ひくくさしこむ
一花の瓶を
ひくくさしこむ
一花瓶の
一花瓶の中に
ひくくさしこむ
一花瓶の中に
ひくくさしこむ
一花瓶の中に
ひくくさしこむ

の切着は一枝をとりて花一枝
は一本をとりて活るなり二本三
本をとりて高く高く高きに
のみをとる
一花をとりてあらたのもとに小刀か
ぬのをくさ所中はまりて花をさしこむ
本数はまりまへてあるべき事也
一花数乃極のは高きまへて花とかたり付
一方枝まへてけれんなんて枝をなく
おきて根まとりたるみて第五乃
てはゆるしてあるべき様に花乃高

きさ一寸の花は寸法乃高
りより高き寸法
一花と高き所に板草へ少分かすりふ
はりのもてるもの一入はしむさし
一花とかたるは一番目中は二番は三番は
右に一枝のしら式乃とる面とは根乃
高きと見る板右乃掛りて乃物こと
用る
一人乃花道乃高盛あるさいてる所乃高
まへのしらく面乃
事乃一乃稽古

一花堂詠歌こゝろはひ一たゞん堂ゝ
開れたるゝ
一三龍花の一書中なる二巻を三巻にし
一花堂作付下書なるを法眼にて
一押板下書あて
同家法乃法
何れも右の如く
庄氏一巻者を
窓硯に流雅
者ゝ文安二年丁酉十六日

此一冊前代未聞之ほこ天下に著くは遠
と雖ども稀世珍書たるべきか
さる和歌のつゝ和んの旅枕ふるすゝし
繁昌に倍ゝさゝし著い南世の風雅
より絶ずかゝりけるとそいふんは不可
説申ゝ

延寶四年丙辰孟春日　中村七兵衛
洛陽書林　寺澤長右衛
梅村三郎兵衛